

編集後記：出勤の際、いつもの時刻に家を出ると、よく見かける親子連れがいます。幼稚園への通園途中に手をつなぎ、「♪花、花、お花が咲いたよ、お花♪」や、「♪お弁当、お弁当、今日のお弁当、何だろう～♪」等と、(おそらく)自作の歌を口ずさみながら歩いてくるのですが、先日、耳にしたのは「♪カンキ、カンキ、カンキの歌♪」でした。幼稚園児が歌う「カンキの歌」とは、さて、何でしょう。

話は変わりますが、編集委員の仕事のひとつに、印刷ゲラの校正作業があります。昔、版を組んでいた頃の校正は、カタカナの「カ」と漢字の「力」の間違ひとか、文中の段落や行が抜け落ちてしまうのとかを見逃さないことが主だったと記憶していたのですが、最近ワープロ入稿が多いため、このような類のミスはほとんど見かけません。その代わり、気をつけなければならないのは同音異義語の変換ミスです。本来は原稿の時点で気を配るべきなのですが、見落としとしてしまい、校正の段階まで残っていることがあるようです。

私の使っているワープロ(仮名漢字変換)ソフトの設定では、まだ、「機構」と「気候」の違いを判別できる程には賢くは無いので、自分の所属を打つ時には注意しなければなりません。「気候」と「寄港」は文法的に区別できているようで、それには驚かされますが、「寄港」と「帰港」の違いを見分けるまでには、まだ開発の余地がありそうです。

ところで、園児が歌う「カンキ」ですが、「歓喜の歌」には少し時期が早いなあと思っていたら、「今日はカンキが来るから雨が降るんでしょ」とのこと。どうやら「寒気」のようです。天気予報で耳にした専門用語をすぐに歌にってしまうとは将来有望です。この子の「雨降りの歌」は聞いたことがありますので、次の機会には雪の歌も聞かせてほしいなと思いました。

この編集後記が皆様のもとに届くのは、上空に寒気が入り、各地に雪の便りが聞こえている頃でしょうか。季候の変わり目は体調を崩されることが多くなります。暖房の際は部屋の換気もお忘れなく。

(城岡竜一)